

第2回部会議事の主な意見・質問及び回答まとめ

介護保険制度の状況について(議事2)

No	意見の要旨	回答
1	年少人口8.8%は、少ないと思います。究極の「介護予防は、元気な子どもたちを沢山育てること」。安心して子どもを産める区に。	中野区は23区で最も年少人口の割合が低く、居住環境などが大きく影響しているものと分析しています。人口自体は年々増えていますが、全体に占める割合を増やすためにはソフト面での対応が必要と考えます。
2	・介護予防事業は、歯科医師会と連携を密にして、更なる充実を図る。 ・口腔ケアを介護サービス、ケアプランに組み入れる。	第4回(7月開催予定)の部会で、「介護予防・生活支援サービスの取組み」を予定しています。これまでの区での取組みなどもお示ししながら、これからの取組みの方向性や具体的な目標などについてご審議いただきます。これまでも居宅療養管理指導という介護サービスで歯科衛生士などが訪問して口腔ケアの助言・指導を行っていますし、施設・居住系サービスで口腔ケアを行う場合は報酬の加算が算定できます。
3	制度改正のたびに仕組みがわかりにくくなる事がある。利用者の視点も考慮するようにしてもらいたい。	保険者としては、区民の皆様にご理解をいただけるよう、パンフレットやホームページなどわかりやすい広報に努めていきます。
4	2-(1)住所地特例をする場合は、それまでに区内に2年以上居住などの条件などはどうか。 コロナのため、より訪問介護ヘルパーが不足している。対策は。	住所地特例の制度は保険者による裁量の余地がないが、決定までの過程において保険者の意見が求められる場面があれば、審議会での協議の結果を反映させたいと思います。 コロナ禍により、ヘルパー不足の状況がより深刻になっていると認識しています。 介護人材の確保・育成・定着は第8期計画においても重要な課題であるため、審議会における議論をお願いしたいと思います。
5	中野区高齢者人口は全体の約2割、これからを考えるとかなり厳しい状況と受けとった。	国平均と比べると、中野区を含む都市部の高齢化率は低いほうですが、後期高齢者が年々増加することはハード・ソフト両面の基盤整備や給付費の増大に直結するため、介護予防の重要性はより増しているものと考えます。

運動実施率の向上について(議事3)

No	意見の要旨	回答
1	1日の平均歩数により、日常の運動・身体活動レベルを把握できます。そのデータ取得の方策を検討しましょう。	現在、健康管理に関するアプリなど、様々なツールがありますので、そういったものを活用し、施設利用者、事業者からデータを取得するための方法を検討していきます。
2	中・高年の運動・スポーツ環境整備は大切だが、消極的な区民へのアプローチより、実施されている区民に手厚くすべきと考える。実施区民が、消極的区民を取り込む形が良い。	運動実施率が低い者へのアプローチには限界があります。各地域でスポーツを実施している区民や団体の活動により、未実施者を取り込んでいけるよう、活動環境の整備などに取り組んでいきます。
3	運動だけでなくレクリエーションも大切。どちらもモチベーションを上げられる支援が必要かと考える。	レクリエーションは体力や技術を競うよりも、楽しさを共有することが重視され、誰でも参加できる遊びやゲームを通じた、地域交流の促進に有用です。運動やスポーツと同様、健康で生き生きと暮らせる地域社会を作るための手段として、各種事業で活用していきたいと思います。
4	(議事3、4について) 感染防止に配慮したスポーツ活動や運動のやり方等に係る「マニュアル」のようなものは策定しているか。中野区特有のものはあるか。	都や関係省庁、団体の各種ガイドライン等を参考に、中野区の施設や事業の特性などを考慮し、必要な対策を個別に検討、実施します。また、施設の利用方法や事業参加時の注意事項といった形で、区民の皆様にはスポーツ・運動の際に必要なことを伝えていきます。
5	運動嫌いな高齢者を動かすには歌の会など出向きたくなる催しを開催し、それから運動へと導くのも一つの方法と考える。	多くのきっかけを提供することが運動実施率の向上に不可欠であると考えます。歌や音楽との親和性の高い体操やダンスを組み合わせるなど、事業内容の工夫に取り組んでいきます。

第2回部会議事の主な意見・質問及び回答まとめ

スポーツ活動の状況について(議事4)

No	意見の要旨	回答
1	健脚度測定を「転倒予防の指導」と結びつける工夫をすれば、スポーツと介護予防が結びついた事業に。	区の委託に基づき、スポーツ・コミュニティプラザにおいて認知症予防など介護予防事業を実施していきます。今後、健脚度測定や高齢者を対象としたスポーツ事業と介護予防事業との連携を検討していきます。
2	中野区歯科医師会には、日本スポーツ協会公認のスポーツデンティストが2名おります。有効な人材活用をお願いします。	スポーツに関する様々な人材が連携できる環境が重要であると考えます。地域スポーツクラブなどスポーツ団体へ人材の情報を提供し、活動の場を広げていきます。
3	新型コロナウイルス感染防止に向けた自粛後の再開の方法についても検討が必要。	都や関係省庁、団体の各種ガイドライン等を参考に、感染症対策を各スポーツ団体と共有し、事業等を再開していきます。また、今後も感染の状況に応じて対策が見直される可能性がありますので、臨機応変に対応し、区民がスポーツ活動を継続していけるよう、取り組んで参ります。
4	宣言解除後、各スポーツ施設で3密にならない方法で事業活動を推進する方策はできているのでしょうか。	施設利用者や事業参加者が密集しないよう指導するとともに、トレーニングルームなど感染リスクの高い施設や教室は人数や時間を制限するなどの対策を講じていきます。
5	スポーツチャンバラが入っていないのが残念。	地域スポーツクラブやスポーツ推進委員は、事業を通じ様々なスポーツに取り組んでいます。今後も地域のニーズ等を反映し、幅広い種目のスポーツを取り上げ、紹介していくことで、運動・スポーツのきっかけを提供していきます。
6	地域スポーツクラブなどの会員数が増え、いい傾向です。これからは高齢者が増え健康づくりの促進が必要である。	各種スポーツ団体等と連携し、無理なく楽しく運動・スポーツを実施できる環境づくりに取り組んでいきます。

高齢福祉・介護保険サービス意向調査の実施について(議事5)

No	意見の要旨	回答
1	高齢者調査、問14、15、転倒に関するQ。転倒経験基に、骨折経験と、骨折部位、頭部外傷の経験を尋ねる。	区独自の設問として、次回の調査時に加えることを検討します。
2	・緊急事態宣言の期間内に実施されている調査であるため、報告書には、それを明記する必要がある。 ・回収率が例年に比べ低い場合(現時点で把握済と思うが)、回収期間の延期も行うのか要検討。	設問の中にも、外出の有無など直近の生活様態に関するものがあり、回答者は通常時を想定せず回答している可能性も含め、報告書にはその旨を記載する考えです。回答期限については、現在、回収中であるため、回収率を見極めて判断します。
3	歯科健診の実施状況を把握していただきたいです。	次回の調査にオプション項目として追加すべきかどうか検討します。
4	紙だけでなくWebアンケートも同時にしてはどうか。	Webアンケートの回答者と紙アンケートとの回答者の重複を避けられる技術的な方策があれば検討してまいります。
5	意向調査の内容について、過去との比較が難しい、現状からは答え難い項目等が含まれているようにも思われます。調査内容について(5月8日発送済み?)、今後どのような分析、評価等が予定されているのでしょうか。調査項目を変更しての再調査等は検討されているのでしょうか。 『例えば「昨年と比べて外出の回数が減っていますか」《高齢者調査》、「令和2年4月の1か月の間に～介護保険サービスを利用しましたか」《介護サービス利用調査》、「サービス担当者会議を開催する上での問題点は何ですか」《ケアマネジャー調査》…』	ご指摘のとおり、回答者が通常時を想定せず回答している可能性も含め、報告書にはその旨を記載する考えです。再調査は予定していません。
6	意向を調査することは必要でありこれらも定期的に人数を増やしておこなわれることを望みます。	時系列で回答結果を分析する事は重要であるとともに、計画策定のための重要なツールとして国・区共々考えているため、今後も計画策定期間に合わせて調査を行う考えです。